

演題名	交雑種レシピエントによる自然哺乳を活用した黒毛和種子牛の哺育育成技術		
発表者氏名	常田将宏	所属	畜産試験場
<p><b>【はじめに】</b></p> <p>近年、黒毛和種子牛（和子牛）の需要の高まりにより市場価格が高騰し、肥育経営を圧迫していることから、和子牛の生産拡大は喫緊の課題である。</p> <p>本県におけるホルスタイン種（乳用牛）をレシピエントとする受精卵移植（ET）による和子牛生産は全体の約 25%を占めているが、交雑種を用いた和子牛生産は 4%未満で、多くの交雑種雌牛は繁殖に活かされることなく、肥育されているのが現状である。交雑種雌牛のレシピエントとしての利用が拡大すれば、和子牛生産頭数の大幅な増加が可能である。</p> <p>一方、近年、低脂肪高蛋白の代用乳を多量に給与する「強化哺乳」が高増体子牛を育成する方法として注目されている。そこで本研究では黒毛和種に比べ泌乳能力の高い交雑種をレシピエントとして用い、和子牛を分娩させた後、自然哺乳を行わせることにより、疑似的な強化哺乳を実現、簡便かつ付加価値のある和子牛生産技術について試験を行った。</p> <p><b>【材料と方法】</b></p> <p>未経産交雑種レシピエント（母牛）に対し、ET を実施し、和子牛分娩後に、母牛への飼料給与量を「日本飼養標準・乳牛」をもとに少量給与群（2 頭）と多量給与群（3 頭）に分け、和子牛の哺乳量、発育状況及び母牛の繁殖性について調査した。また、2 産次についても同様に調査を行った。</p> <p><b>【結 果】</b></p> <p>(1) 交雑種レシピエントに ET 和子牛を授乳させた場合、黒毛和種雌牛の 2 倍程度の授乳量となり、高増体の和子牛が育成できた。</p> <p>(2) 長野県いきいき子牛育成マニュアルに則った 3.5 か月齢での離乳を行うと、出荷月齢である 8 か月齢（240 日齢）時で極めて良好な増体となった。</p> <p>(3) 交雑種レシピエントは分娩後、飼料給与量が適正量に満たない場合（少量給与群）であっても、授乳量に影響はないが、分娩後の発情回帰は遅延した。</p> <p>(4) 2 産次も和子牛は良好な増体となり、交雑種レシピエントの繁殖性も良好だった。</p> <p>(5) 和子牛の日増体量は、哺乳量と正の相関があり、特に 45 日齢時に強い相関が見られた。</p> <p><b>【考 察】</b></p> <p>以上の結果から、交雑種レシピエントに自然哺乳をさせることで高増体の黒毛和種子牛を育成できると考えられ、下記の点に留意した上で普及可能な技術として公表した。</p> <p>(1) 交雑種を繁殖利用する場合、通常的人工授精を行っても産子が安価であるため、原則受精卵移植のレシピエントのみの利用となる。</p> <p>(2) 交雑種レシピエントは授乳量が多いためか、和子牛の人工乳摂取量は少なくなる。長野県いきいき子牛育成マニュアルでは人工乳 2.0kg/day を完食できるようになってからの離乳を推奨しているが、本試験では離乳前の人工乳 2.0kg/day 到達は困難と判断し、離乳後に人工乳 2.0kg/day を確実に完食させ、育成期飼料に切り替えた。</p>			